

# 各種殺虫剤のナシヒメシンクイに対する防除効果

福島県農業総合センター 果樹研究所

## 1 部門名

果樹 - ナシ - 病害虫防除

## 2 担当者

佐々木正剛・穴澤拓未

## 3 要旨

複合交信かく乱剤を基幹防除としたナシの減農薬防除体系実施場において、ナシヒメシンクイによる「豊水」の果実被害が問題化してきたため、2008年、2009年に主要殺虫剤のナシヒメシンクイに対する防除効果を比較検討した。

- (1) 「豊水」を対象に2008年8月4日と8月27日の2回、各殺虫剤(展着剤加用)を散布した結果、被害果率は合成ビレスロイド剤のスカウトフロアブル2000倍区で最も低く、また、被害果に食入したナシヒメシンクイの幼虫数も最少なかった。ネオニコチノイド剤の中では、被害果率はモスピラン溶剤2000倍区が他の2剤と比較して低かった(図1、表1)。残効期間はスカウトフロアブル2000倍区で22~25日、モスピラン水溶剤2000倍区で14~20日であった。
- (2) 「豊水」を対象に2009年6月22日、7月22日、8月24日の3回、各殺虫剤(展着剤加用)を散布した結果、被害果率は2008年と同様にスカウトフロアブル2000倍区で最も低く、また、ネオニコチノイド剤の中ではモスピラン水溶剤2000倍区が他の2剤と比較して低かった(図2)。残効期間はスカウトフロアブル2000倍区で約30日間、モスピラン水溶剤2000倍区で約20日間であった。
- (3) 以上のことから、ナシヒメシンクイに対する防除効果はスカウトフロアブル2000倍が最も優れており、多発生条件下でも被害果率を1%程度に抑制することが可能であった。また、残効期間は22~30日と長く、さらに幼虫の食入阻止効果も高いと考えられた。防除効果は以下、アディオンフロアブル1500倍 モスピラン水溶剤2000倍 > ダントツ水溶剤2000倍 アルバリン顆粒水溶剤2000倍 > バリアード粒水溶剤4000倍 > アクタラ顆粒水溶剤2000倍の順に高いと判断された。

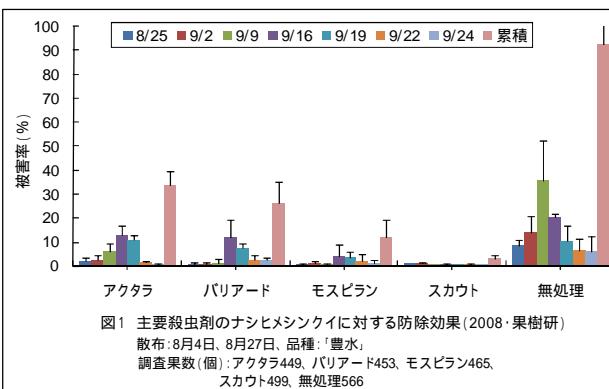


図1 主要殺虫剤のナシヒメシンクイに対する防除効果(2008・果樹研)  
散布: 8月4日、8月27日、品種:「豊水」  
調査果数(個): アクタラ449、バリアード453、モスピラン465、  
スカウト499、無処理566

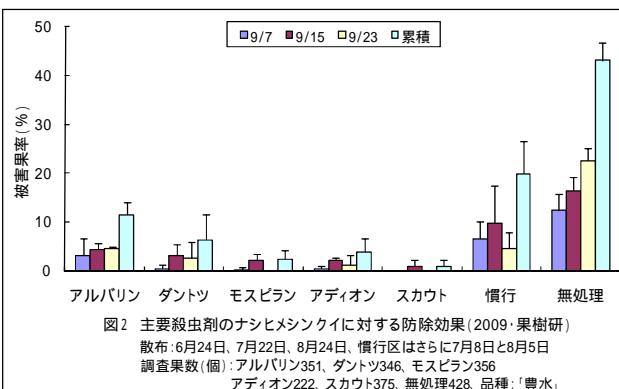


図2 主要殺虫剤のナシヒメシンクイに対する防除効果(2009・果樹研)  
散布: 6月24日、7月22日、8月24日、慣行区はさらに7月8日と8月5日  
調査果数(個): アルバリン351、ダントツ346、モスピラン356、  
アディオン222、スカウト375、無処理428、品種:「豊水」

表1 「豊水」の被害果に食入したナシヒメシンクイ幼虫数(2008)

供試薬剤・濃度	被害果数	幼虫数	幼虫数/果実
アクタラ顆粒水溶剤2000倍	128	245	1.91
バリアード顆粒水溶剤4000倍	96	152	1.58
モスピラン水溶剤2000倍	36	39	1.08
スカウトフロアブル2000倍	6	7	1.17
無処理	330	692	2.10

(注)8月25日~9月24日の合計

## 4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20~21年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008~2009)